

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和5年第I四半期（1～3月）

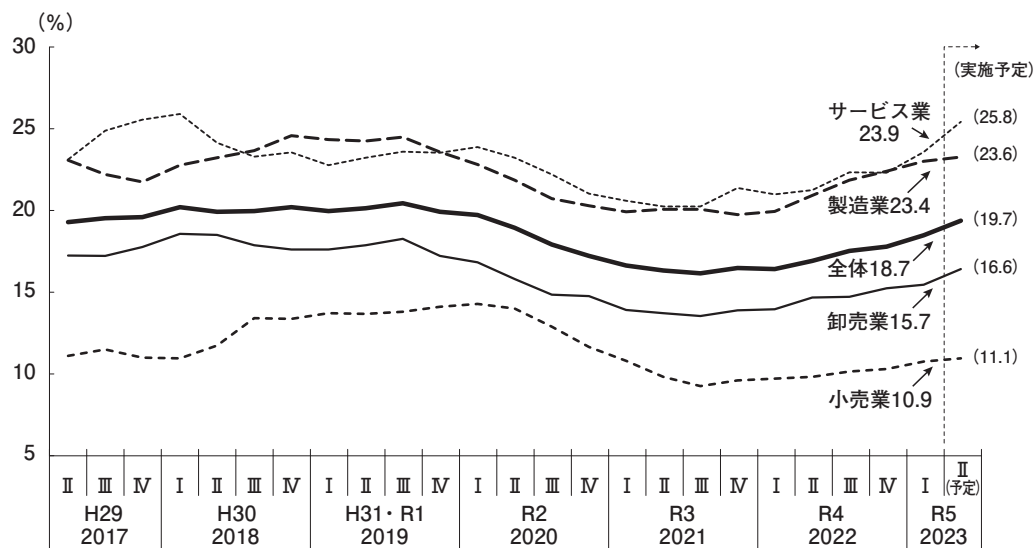
設備投資：全業種で上昇 **資金繰り：全業種で改善**
採算状況：2期連続で改善 **雇用人員：小幅ながら3期連続で不足感が強まる**

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（令和5年1～3月）に設備投資を「実施した」割合は全体では18.7%となり、前期（令和4年10～12月）の18.0%から上昇した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合はサービス業23.9%（前期22.6%）が大幅に上昇した。製造業23.4%（同22.7%）と小売業10.9%（同10.4%）はともに上昇、卸売業15.7%（同15.4%）はわずかに上昇した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和5年4～6月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では19.7%となり、大幅に上昇する見通しとなった。

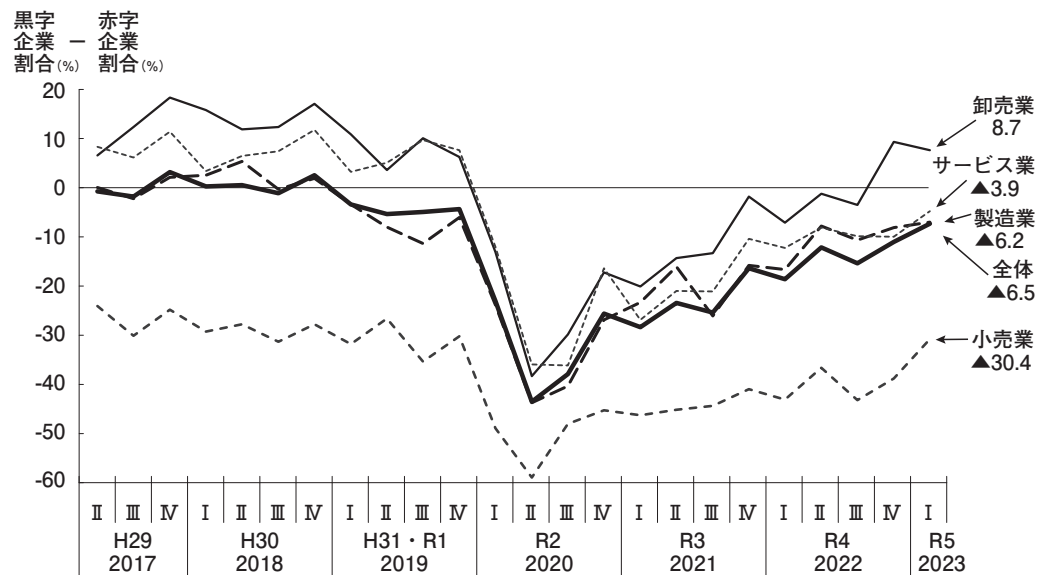
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は当期と比べて全ての業種で上昇が見込まれる。なかでもサービス業25.8%は大幅に上昇する見通しとなった。

■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合で見ると、全体では▲6.5（前期▲10.3）となり、2期連続で改善した。

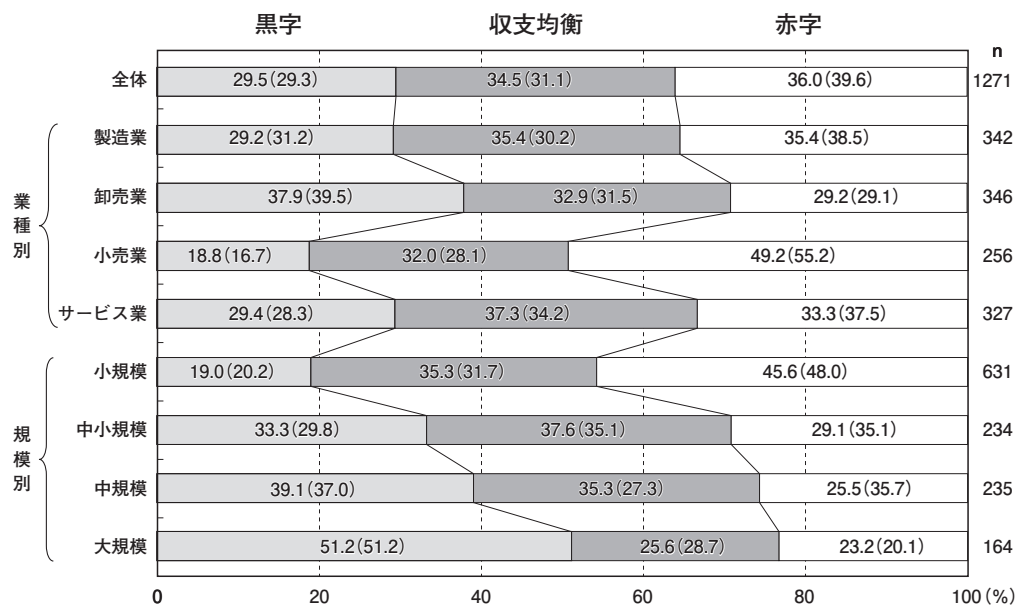
業種別にみると、小売業▲30.4（同▲38.5）は8.1ポイント増加し大幅に改善した。サービス業▲3.9（同▲9.2）は5.3ポイント増加し改善、製造業▲6.2（同▲7.3）は1.1ポイント増加しやや改善した。一方、卸売業8.7（同10.4）は1.7ポイント減少しやや悪化した。

図表2 採算状況の推移



規模別にみると、小規模では黒字が19.0%（同20.2%）であるのに対し大規模では黒字が51.2%（同51.2%）を占めた。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。()内は前期(令和4年10~12月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

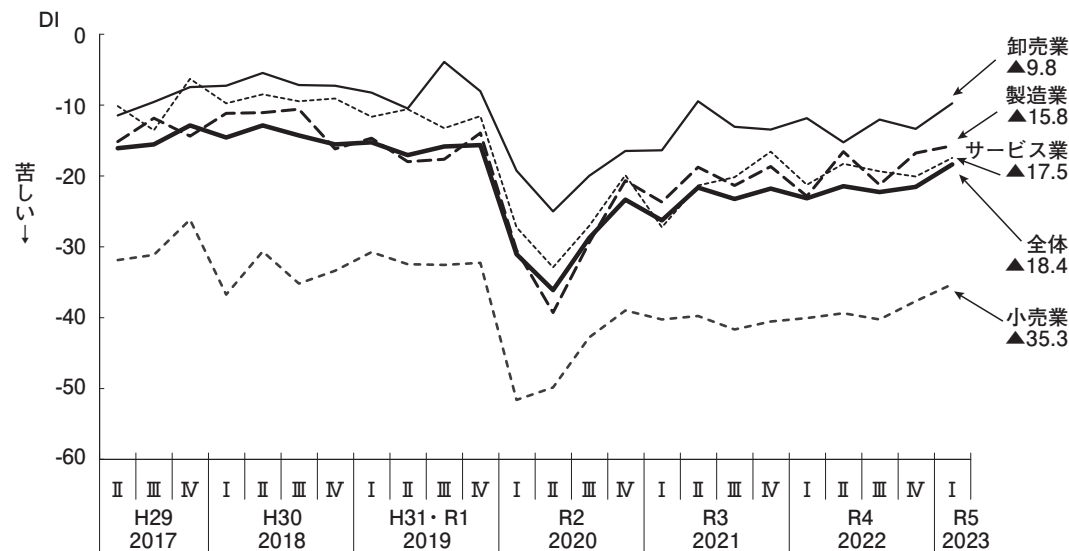
資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI(「楽」-「苦しい」)でみると、全体では▲18.4(前期▲21.6)と3.2ポイント増加し改善した。

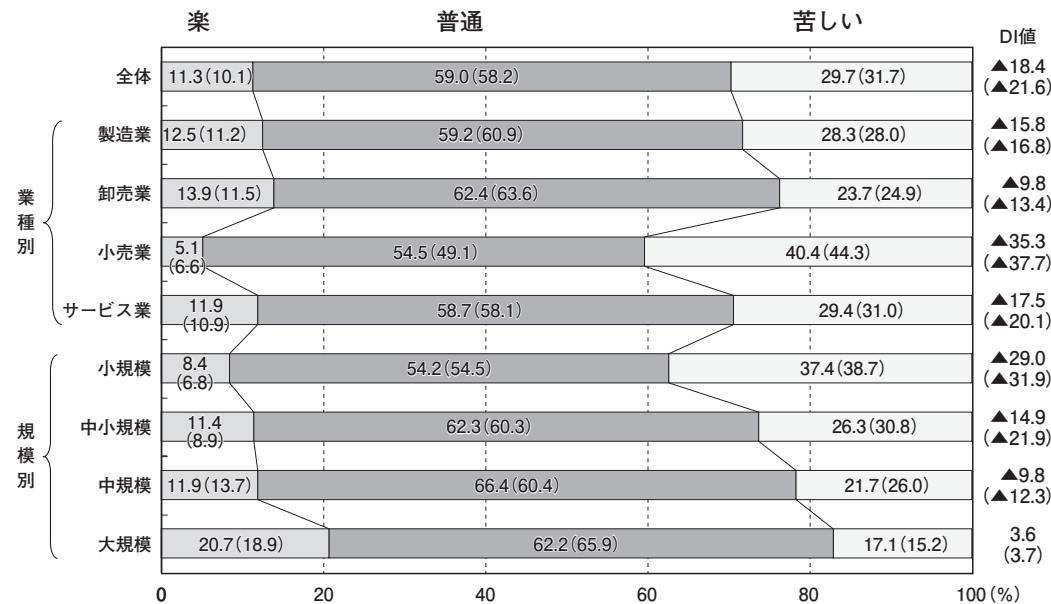
業種別にDI値をみると、卸売業▲9.8(同▲13.4)は3.6ポイント増加し改善した。製造業▲15.8(同▲16.8)は1.0ポイント増加、サービス業▲17.5(同▲20.1)は2.6ポイント増加、小売業▲35.3(同▲37.7)は2.4ポイント増加しそれぞれやや改善した。

規模別にDI値をみると、全ての規模で増加し改善した。なかでも中小規模▲14.9(同▲21.9)は7.0ポイント増加し大幅に改善した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）



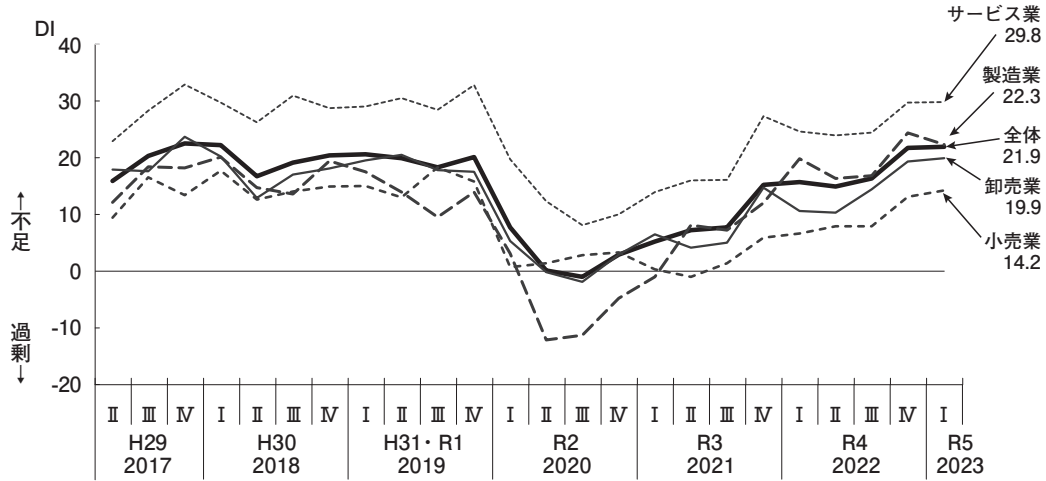
注) 規模別は規模不明を除く。()内は前期(令和4年10~12月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」-「過剰」）で見ると、全体では 21.9（前期 21.7）となり、小幅ながら3期連続で不足感が強まった。

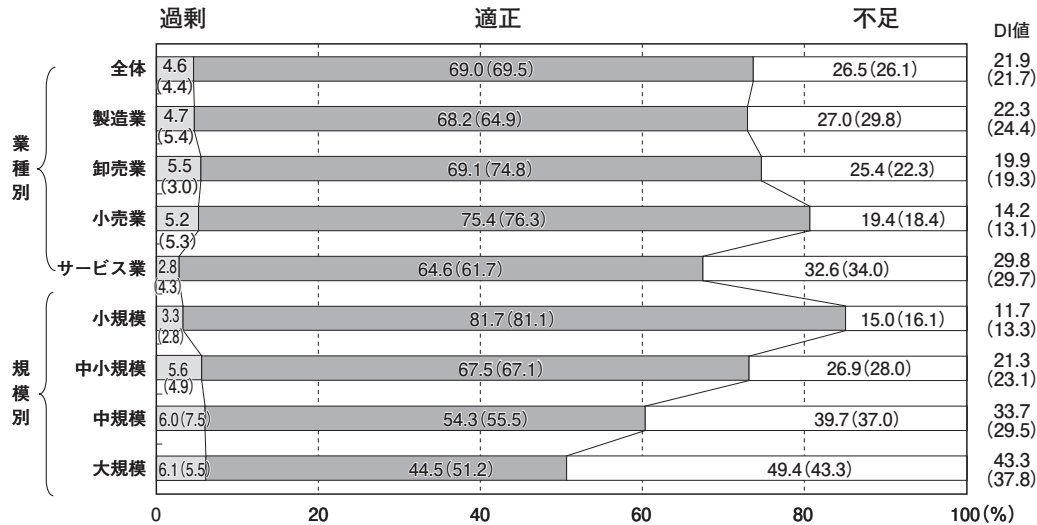
業種別に DI 値をみると、小売業 14.2（同 13.1）は 1.1 ポイント増加しわずかに上昇した。

図表6 雇用人員 DI の推移



規模別に DI 値をみると、規模が大きくなるほど DI 値が高くなり、大規模は 43.3（同 37.8）となった。

図表7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。()内は前期(令和4年10~12月)の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。